

令和4年度第1回練馬区立美術館運営協議会 要録

日時：令和4年11月2日（水）午前10時30分

場所：サンライフ練馬 3階研修室

出席委員 高橋幸次会長、島田紘一呂副会長

伊豆井秀一委員、佐藤康宏委員、島田紀夫委員、内藤正人委員、馬淵明子委員、柴田さちこ委員、やない克子委員、富田けんじ委員、須藤麻世委員、畑智江子委員、石原秀男委員、吉田巴蔵委員、江川誠志委員

区職員 小金井地域文化部長、渡辺文化・生涯学習課長、稲永美術館再整備担当課長

文化・生涯

学習課長： 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから、令和4年度第1回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。今回の会議は、新型コロナウイルス感染症の状況下ということもありますので1時間をめどに会議を終了したいと思っております。よろしくお願いいたします。

私は、文化・生涯学習課長の渡辺と申します。今年度、委員の改選を行い、本日が練馬区立美術館運営協議会第19期の初開催となるため、会長・副会長の選出まで、私が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

はじめに、小金井地域文化部長よりご挨拶いたします。

部長： 早い時間からお集まりいただき、ありがとうございます。

美術館運営協議会は任期が2年となっており、第19期を迎えることができました。引き続きの委員の方は、これまでの経験を活かし、忌憚のないご意見をお願いいたします。また、新しい委員の方には、美術館の様々な活動に対して同じようにご意見を頂戴したいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

文化・生涯

学習課長： 次に組織改正により新たに新設された美術館再整備担当課長よりご挨拶申し上げます。

美術館再整

備担当課長： 3月まで、文化・生涯学習課長をしておりましたが、4月から美術館再整備担当課長となりました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

文化・生涯

学習課長： それでは、開会に先立ち、今期委員の委嘱をさせていただきます。資料1ページをご覧ください。委員名簿を添付してございます。大変恐縮ではございますが、委嘱状の机上配付をもちまして委嘱に代えさせていただきます。なお、任期は2年となりますのでよろしくお願いいたします。

本来ですと、新規委員からご挨拶をいただくところではございますが、今回はお名前のご紹介のみとさせていただきます。

<新任委員紹介>

文化・生涯

学習課長：美術館の運営にあたる、練馬区文化振興協会の美術館職員に同席をお願いしております。こちらは秋元美術館長から紹介させていただきます。

館長：館長の秋元です。私から、美術館職員をご紹介します。

<美術館職員紹介>

文化・生涯

学習課長：それでは、議題に入る前に、委員の出席状況についてご報告します。本日は、委員2名から欠席のご連絡がありました。今期委員は17名、現在15名の出席でございます。従いまして、美術館運営協議会条例第7条第2項の規定により、本日の協議会は成立いたしました。なお、傍聴希望者はありません。以上ご報告いたします。

では、議題に入らせていただきます。次第の1、会長、副会長の選出ですが、資料の3ページを参照ください。美術館運営協議会条例の第6条第2項に、会長および副会長は、委員の互選によると規定されております。選出について、ご意見がございましたらどうぞお願いいたします。

<高橋幸次会長・島田紘一呂副会長互選により選出>

それでは、会長、副会長から就任のごあいさつをお願いしたいと思います。

<会長・副会長あいさつ>

それでは、ここからは会長に議事進行をお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

会長：では、これより私の方で進行させていただきたいと思っております。はじめに、本日の議事の進行についてお諮りいたします。次第の2、令和3年度事業報告から、順次、説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

会長：それでは、「令和3年度事業報告」について、説明をお願いします。既に資料をご覧くださいと思いますので、ポイントを絞った説明をお願いします。

館長：<「令和3年度事業報告」について説明 … 館長、学芸員>

会長：「令和3年度事業報告」について、質問などがありましたらお願いします。

委員：練馬区としての考えはわかりますが、税金を使って事業を行っている以上、費用対効果を考えなければならないと思います。美術館は指定管理者が運営しているということですが、他の事例で、運営方針

に変更があった際に指定管理者へ事後報告をするようなことがあると聞いたことがあります。練馬区ではいかがでしょうか。

文化・生涯

学習課長： 指定管理者を選定する際に、指定管理期間の事業計画を立てています。また、新型コロナウイルス感染症の状況による計画の変更についても、年度ごと事前に、綿密に協議をしております。

委員： ありがとうございます。また、事業のアンケートについて、参加者へは行っていると思いますが、参加できなかった方や参加しない方、美術館へ来ない方へのアンケートは行っていきますでしょうか。

文化・生涯

学習課長： 事業に参加した方や来館した方へのアンケートは行っています。他の施設も同様ですが、参加していない方の声を拾うのはなかなか難しく、直接的なアンケートは行っていませんが、全体として区民意識意向調査等で意見を聞いている状況です。

委員： ありがとうございます。

会長： 他にありませんでしょうか。

委員： 昨年度の馬場のぼる展は、注目度も高く、新聞等にも多く取り上げられ来場者数が伸びています。これは、これまで美術館に来ていなかった方が来館したからではないかと思います。今後も、今まで美術館に足を運んだことのないような方が来館するような企画展を実施する予定はありますか。

館長： 馬場のぼる展は、視覚美術と物語との兼ね合いや絵本の世界観のある展覧会でした。昨年度のピーター・シス展も同様で、図書館と一体化している練馬区立美術館の特色であり、このような展覧会は今後も継続して実施していきたいと考えています。

委員： ありがとうございます。今後も、子どもたちが興味を持つようなものを楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

会長： 他にありませんでしょうか。

委員： 出張プログラムについてですが、区立小学校4校のうち3校が美術館近隣の学校となっています。どのような経緯でこれらの学校になったのか教えてください。

学芸員： たまたま美術館近隣の学校から依頼がありました。今年度は遠方の学校からも依頼がありますし、案内は区内全校にお送りしています。中村小は昨年度初めて行い、今年度も依頼がありました。

委員： 依頼が増えると大変になると思いますが、よろしくお願いいたします。

会 長：他にありませんでしょうか。

委 員：ワークショップやギャラリートークは、定員をはるかに超える申込がありました。以前は欠員等もありましたが、ご尽力いただいて昨年度は満席となっています。今後も申込が増えると思っています。学芸員も増えたこともあり、事業の枠を広げる予定はありませんでしょうか。

館 長：単純に回数を増やすのではなく、内容を充実させていきたいと思っています。新しい美術館の顔となるようなものにしていきたいと考えています。

委 員：ありがとうございます。身近で文化に触れられる良い機会と思っていますので、これからもよろしくお願いいたします。

会 長：他にありませんでしょうか。

委 員：毎回話をしているのですが、ここ何年も作品の購入がありません。毎年とは言いませんが、2～3年に1回とか、コンスタントに必要なものを集めることにお金を使うことは大事だと思っています。
また、寄贈が多くあることは素晴らしいことです。今回は特に、野見山氏のような有名な作家の名品が寄贈されたのはとても良いことです。一方で、まとめて受け入れをする時は、額装や作品クリーニング等経費が伴います。例えばその経費をクラウドファンディングで補えば、野見山氏の作品が練馬区立美術館に寄贈され、区の財産として保管するというのを知らせることになると思います。返礼品についてや、手数料等がかかることなど課題はありますが、クラウドファンディングをすることで、広報的にも金銭的にも支えになると思います。購入とクラウドファンディングについて、考えがあればお聞かせください。

館 長：再整備に合わせて、どのようなコレクションにするかを検討しています。コレクションについては、区に相談し、購入も再開させていきたいと思っています。また、クラウドファンディングとまではいきませんが、外部資金については積極的に申請し、獲得するようにしています。一方で、運営や用途に制約のある税金が入っており、区の文化方針に照らし合わせて検討していますので、その方針に沿って美術館を運営してまいりたいと思います。

委 員：購入に対して前向きであるのはとても良いことだと思います。野見山氏は人気のある方なので、野見山氏のお名前クラウドファンディング行うのは、最終的に資金が集まるかどうかというよりは、広報として効果的だと思います。国立の美術館はクラウドファンディングを行っています。会計が異なるので同じようにはできないかもしれませんが、既に行っているところに話を聞いてみるのもよいかなと思います。

文化・生涯

学習課長：自治体レベルで、文化芸術分野でクラウドファンディングを行っている事例はあります。クラウドファンディングに広報の側面があることについては、なるほどと思いました。今後、参考にしていければと思います。

会 長： 実際に額装についてのクラウドファンディングを行うのであれば、野見山氏の意向も伺わなければならないと思います。
他に質問等はありませんでしょうか。

委 員： データベースへのアクセス数について、昨年度1月～2月は件数がとても増えていますが、理由がわかりますでしょうか。

学芸員： データベースへのアクセス数が増えた理由はよくわかりません。裏付けはありませんが、この時期は、収蔵作品による小林清親展を開催していました。これまで出展したことのないものを展示したので、その関連作品としてデータベースが検索されたのかもしれませんが。

会 長： 他にありませんでしょうか。

委 員： テレビ番組「日曜美術館」の「アートシーン」に、現在開催されている展覧会が取り上げられ、小野学芸員が出演されていました。どのような経緯で出演したのでしょうか。また、今後このような機会はありますか。

館 長： プレスリリースは展覧会ごとに様々なメディアに毎回出しており、取り上げるかどうかは相手のマスコミ次第ですので、こちらで決められないもどかしさがあります。粛々とよい展覧会を開催し、広報していきたいと思っております。

委 員： ありがとうございます。今後も楽しみにしています。

会 長： 他に質問がなければ、「令和3年度事業報告」について承認とさせていただきます。
次に、次第の3「令和4年度事業計画（中間報告）」について、説明をお願いします。こちら、ポイントを絞ったご説明をお願いします。

館 長： <「令和4年度事業計画」について説明 … 館長、学芸員>

会 長： 「令和4年度事業計画」について、質問等がありましたらお願いいたします。

委 員： 朝倉展は巡回展でしたが、巡回展の仕組みについて教えてください。

館 長： いくつかパターンがありますが、練馬区立美術館の場合には、学芸員が学会等で研究を深め、その中で他館の学芸員と作り上げていくことが多いです。

会 長： 他にありませんでしょうか。

委 員： 新しく学芸員が2名入りましたが、再整備により新しい美術館が発足した際には、さらに学芸員を採用する予定はありますか。先ほど、教育普及事業に力を入れていきたい旨お話がありましたので、その辺も含め、新しい学芸員の採用について教えていただければと思います。

美術館再整

備担当課長：再整備により美術館を拡張する予定です。また、「練馬区立美術館再整備基本構想」のコンセプトを実現するために、スタッフについても充実していきたいと考えていますが、具体的なことはこれからとなります。

会 長：他にありませんでしょうか。

委 員：美術館は美術鑑賞だけでよいのかということで、いろいろな自治体が改革をしているようです。アメリカではアートコミュニケーションを取り入れています。美術館は教育機関の1つであり、練馬区立美術館は図書館との融合も謳っています。今の子どもたちに足りないと考えられているコミュニケーションを培うよう、美術を通して、対話・討議するようなことをしていくべきだと思いますがいかがでしょうか。

館 長：当館の教育普及事業は、アートコミュニケーションも取り入れ最新のものを実施しています。実際にご覧いただければ、参加している子どもたちが目を輝かせているのがわかると思います。
小さな美術館ですが、かなり進んでいて全国的に見ても遜色ないものです。ぜひ体験していただきたいと思っています。

学芸員：鑑賞の手法はいくつもあり、対話型もその1つです。できる範囲でいろいろな手法を取り混ぜて、乳幼児から年配の方まで、いろいろなプログラムを組んでいます。

委 員：教育は学校だけではないと思っています。練馬区立美術館でいろいろやっていることがわかりました。街と一体化した美術館を作るのであれば、やり方がいろいろあると思い発言させていただきました。

館 長：美術館運営協議会はいろいろな立場の方が出席し、対等な立場で話し合える場と考えています。新しい美術館についても、大人、子ども、障害の有無に関係なく、いろいろな方が参加できる場を作りにしています。いろいろご意見をいただけることはありがたいですし、一緒にやっているただけるとありがたいと思っています。

会 長：私見ですが、練馬区立美術館はこの規模でよく頑張っていると思っています。今後も期待したいと思います。他にご質問等はありませんでしょうか。なければ、「令和4年度事業計画（中間報告）」について承認とさせていただきます。
次に、次第の4「美術館再整備について」の説明をお願いします。

美術館再整

備担当課長：＜「美術館再整備について」説明＞

会 長：美術館再整備について、質問等がありましたらお願いいたします。

委員：基本設計の公開プレゼンについて、申込締切が明後日ですが、状況を教えてください。

美術館再整

備担当課長：昨日夕方時点の申し込みは60数名です。

委員：公開という形式は好ましいと思っています。関心のある方が参加できるように、自分でも発信しています。区も引き続き発信してほしいと思います。

会長：他にありませんでしょうか。

委員：有名な建築家に関わる場合、発注者の意見が押し切られてしまう例がありますので、発注者に頑張ってもらいたいです。

美術館再整

備担当課長：ご助言ありがとうございます。館長とともに頑張っていきたいと思います。

館長：審査は名前を伏せて、プロポーザルの内容で審査します。建築デザインということよりも、地域における文化施設はどうあるべきなのかとか、先ほどお話にあったコミュニケーションのことや、図書館・美術館の専門機能を活かしながら、どうしたら交流していける場所を作っていけるのか等の提案になってきているのではないかと思います。ぜひ多くの方に公開プレゼンに参加していただき、盛り上げていきたいと思っています。

会長：他に質問がなければ、次第の5「その他」に入ります。何かありますかでしょうか。

何もなければ、以上で令和4年度第1回美術館運営協議会を終了いたします。次回は、来年3月22日（水）午後の開催を予定しております。開催の通知等はまた後日行います。本日はご協力ありがとうございました。